

令和 6 年度

第 2 回 地域経済建設委員会 勉強会

道の駅整備事業について

報告書

令和 6 年 10 月 3 日（木）

## **1. 議題**

道の駅整備事業に関する現状説明

## **2. 場所・時間**

場所:瑞浪市役所 5階 本会議場

日時:令和 6 年 10 月 3 日 (木) 13:30~15:00

## **3. 講師(説明員)**

建設部 市原憲(部長)

今井哲也(担当課長)

奥谷輝久(担当係長)

## **4. 参加者**

瑞浪市議会議員 全員

## 5. 勉強会概要

瑞浪市道の駅整備運営事業スキーム検討調査業務におけるサウンディング調査の結果を含めた道の駅の現状などの説明を受けた。

### ◎ 「瑞浪市道の駅整備運営事業スキーム検討調査業務におけるサウンディング調査」について

#### ① 「官民連携事業手法の導入範囲及び導入パターンの整理による事業スキームの構築」

事業スキームについては「定性的評価」、「VFM算定による定量的評価」、「サウンディング調査による民間事業者の意向」等を踏まえた総合評価により、従来型の設計、建設、維持管理及び運営を業務ごとに分離・分割発注する方式ではなく、設計、建設、維持管理及び運営を民間事業者に一括発注する官民連携手法の一つである「DBO方式」が最も優位性があるという結果となった。

#### ② 「民間事業者の本事業に対する意見、要望及び参加意向の把握」

民間事業者のノウハウを生かした管理運営の可能性、参加の可能性、事業の採算性、事業スケジュール等、事業推進にあたっての課題を整理することを目的として、民間事業者へのアンケート調査とサウンディング調査を実施した。

調査内容は、「瑞浪市道の駅基本計画」に示した「導入機能、導入施設及び配置計画（案）」、「官民連携事業手法の導入」、「施設の運営・維持管理」等に対する意見・要望の聴取、事業参加の意向の把握であった。

調査結果では、導入機能や導入施設について「物販施設だけでなく、ランドマークとなる目的施設を検討すべき」といった新たな提案をいただく一方で、課題として「瑞浪恵那道路の開通時期が公表されていないこと」といった意見などがあった。

また、本事業への参加の可能性については、条件次第では検討したいとの事業者が数社あった。

### ◎ 道の駅の現状について

資料を参考に、現在の計画の進捗状況、国や恵那市の状況を踏まえた道の駅の現状を説明。

## 6. 委員長所感

事業担当者から、道の駅整備運営事業スキーム検討調査業務の成果を踏まえた課題等の整理、導入機能・施設の検討について、また国土交通省（多治見砂防国道事務所）、恵那市との道の駅に関する協議内容について説明があった。

説明の中で、①導入機能、②配置計画（案）、③官民連携事業手法の導入、④事業手法についての民間事業者へのアンケート調査結果では、収益施設の収益性や需要の見通しが明らかでないことや水害の危険性、長期にわたる事業であるためリスク負担について懸念があるなどの意見が示された。

また、①導入機能・施設規模・配置、②施設の維持管理・運営、③望ましい事業手法、④事業参画の可能性の説明についての民間事業者へのヒアリング調査結果では、国道19号瑞浪恵那道路の開通時期を見極めながら施設の計画や建設を段階的に進める必要があるといった意見や、地元の資源や特産品を活用した施設や商品を開発する必要がある、といった意見が示された。

国道19号瑞浪恵那道路の開通時期が公表されていない現状では、工事進捗等を踏まえた道の駅整備スケジュールの再検討が必要である。また、事業を進めるのであれば、サウンディング調査などからも指摘された事業化への課題を解消していくとともに、導入施設及び機能等に対する提案の具現化を検証し、市民に望まれる持続可能な道の駅整備に向けて、さらなる検証を行う必要がある。

## 7. 勉強会資料

シティプロジェクト推進課 提供資料（次頁以降）

# 瑞浪市道の駅整備事業について

令和6年10月3日  
建設部シティプロジェクト推進課

## ■ 目次

---

1. 「道の駅」の目的と機能
2. 「道の駅」の仕組み
3. 「道の駅」第3ステージについて
4. 令和5年度実施事業等について
5. 令和6年度実施事業等について
6. 道の駅整備運営事業スキーム検討調査
7. 多治見砂防国道事務所との協議等
8. 今後の予定について

# 1 「道の駅」の目的と機能

## (目的)

- ・ 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・ 地域の振興に寄与

## (機能)

- |          |                              |
|----------|------------------------------|
| 【休憩機能】   | 24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ         |
| 【情報発信機能】 | 道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供     |
| 【地域連携機能】 | 文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設 |

## (基本コンセプト)

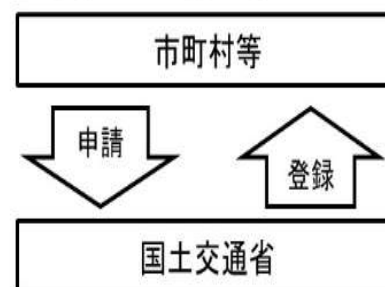


## 2 「道の駅」の仕組み

- 「道の駅」は、市町村又はそれに代わり得る公的な団体が設置
- 登録は、市町村からの登録申請により、国土交通省で登録
- 登録要件は、24時間利用可能な駐車場・トイレ、情報提供施設、地域振興施設を備えていること
- 整備の方法は、道路管理者と市町村等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類

出典：国土交通省HP

「道の駅」の登録手続き



「道の駅」の登録数

|                 |
|-----------------|
| 令和6年2月16日時点     |
| 「道の駅」総数1,213駅   |
| うち一体型：665駅(55%) |
| うち単独型：548駅(45%) |

整備主体と整備内容

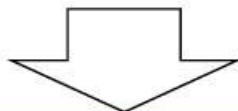


# 3 「道の駅」第3ステージについて

## 第1ステージ(1993年～)

『通過する道路利用者のサービス提供の場』

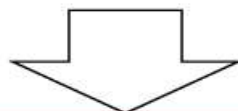
- 道路利用者が安心して休憩できる場を提供



## 第2ステージ(2013年～)

『道の駅自体が目的地』

- 地域の創意工夫により、道の駅自体が観光の目的地や地域の拠点に発展



## 第3ステージ(2020年～2025年)

『地方創生・観光を加速する拠点』

- 各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速
- 「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献



＜観光客や家族が楽しめる空間の提供＞  
※道の駅「川場田園プラザ」



＜加工場の併設により地域雇用の創出＞  
※道の駅「川場田園プラザ」



＜防災セミナーの開催＞  
※道の駅「もてぎ」

### 新たな「道の駅」ネットワーク



### 第3ステージの概要



## 4 令和5年度実施事業等について

- 道の駅計画地の現地測量及び地質調査業務
- 道の駅整備運営事業スキーム検討調査業務
- 国土交通省（多治見砂防国道事務所）、恵那市との  
情報共有

## 5 令和6年度実施事業等について

- 道の駅整備運営事業スキーム検討調査業務成果からの課題等の整理と検証
- 国土交通省（多治見砂防国道事務所）、恵那市との情報共有

## 6 道の駅整備運営事業スキーム検討調査

### 1 事業スキームについて

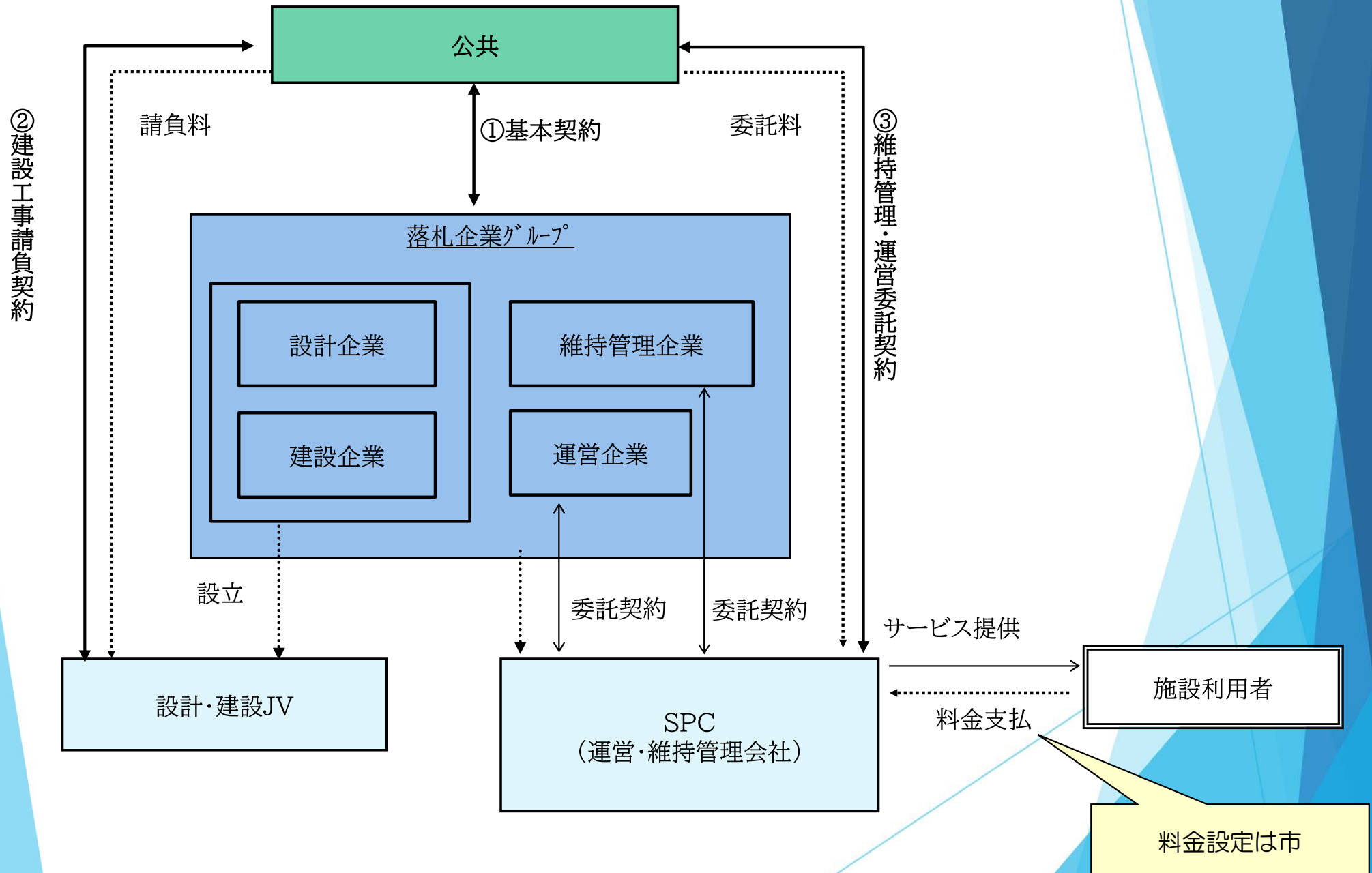
総合評価として、定性的評価、定量的評価（VFM）、民間事業者の意向等の結果を踏まえると、DBO方式が最も優位性があるといった結果になりました。DBO方式とは、従来方式とは異なり、設計・建設、維持管理及び運営を公共が民間事業者に一括発注する方式。

### 2 市場調査について

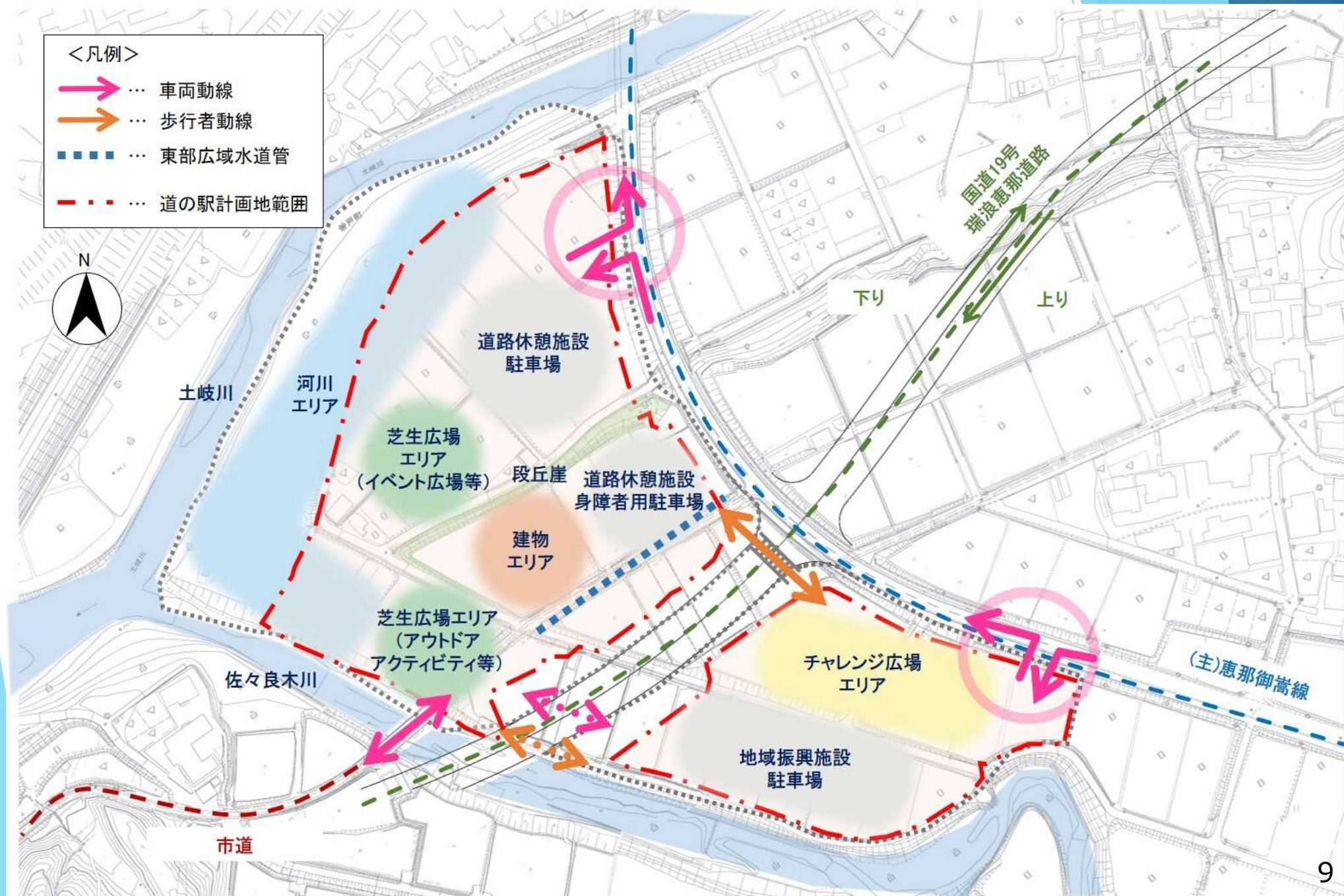
民間事業者の参画可能性、創意工夫の可能性、事業採算性、事業スケジュール等事業化にあたっての課題等を整理することを目的として、民間事業者へのアンケート調査を実施しました。加えて、事業スケジュール及び運営独立採算型で運営し得る可能性等について民間事業者の意見を十分に反映するために、個別にヒアリングを実施しました。

# 道の駅整備運営事業スキーム検討調査②

(DBO方式)



# 施設配置イメージ



# 道の駅整備運営事業スキーム検討調査③

## 1 アンケート調査の結果

### (1) 導入機能について

- ・ 回答者の約7割が適当もしくは概ね適当と回答している。
- ・ 収益施設（よろずや、飲食施設、特産品販売施設、イベント広場、チャレンジ広場）の収益性や需要の見通しが明らかでないことを懸念する意見がみられた。
- ・ 基本計画に示す導入機能の他にふさわしいと考える機能として、防災機能や屋外施設（ファミリーパターゴルフ場、アスレチック施設等）が提案された。

### (2) 配置計画について

- ・ 回答者の約8割が概ね適当と回答している。
- ・ 敷地が南北に分かれていることによる利用者の移動上の安全確保や管理のしにくさへの懸念、河川の合流位置が計画対象地であることに関して、水害の危険性への懸念に関する意見が示された。

# 道の駅整備運営事業スキーム検討調査④

## (3) 官民連携事業手法の導入について

- ・ 官民連携事業手法の導入の有効性について、期待できるとの回答は約7割となっている。
- ・ 他事例での成功例や、民間ノウハウの活用により効果的・効率的な事業の実施が期待できる。
- ・ 地元企業の参画が難しい、地元意見が反映されないのではないかという懸念、事業の収益性や投資回収の見通しが分からない、長期に渡る事業であるためリスク負担に懸念がある等の意見が示された。

## (4) 事業手法について

- ・ 全体として、PPP/PFI事業の知識や経験が乏しいため、判断しかねるとの意見もあったが、運営実績を有する企業では、民間主導で計画・運営することによる利便性の向上などの効果を期待する意見があった。

# 道の駅整備運営事業スキーム検討調査⑤

## 2 ヒアリング調査の結果

### (1) 導入機能・施設規模・配置について

- ・大きく1棟を整備するのではなく、機能ごとの施設整備を検討してみてもどうか。
- ・飲食も含めたダイニングカフェのような施設を別に整備するのが良いのではないか。
- ・追加すべき機能として、水辺を生かしたアウトドアやEVパークなどキャンプ施設が想定される。

### (2) 施設の維持管理・運営について

- ・河川エリアの活用が重要であり、河川を利用した施設整備も検討できる。
- ・民間主導で運営を見据えた施設計画をすることで、利便性の高い施設整備につながる。
- ・道の駅の運営においては、運営事業者が重要であり、設計段階から運営事業者の意見を入れていく必要がある。

# 道の駅整備運営事業スキーム検討調査⑥

## (3) 望ましい事業手法について

- ・ D B O方式を基本にして、公共的サービスと集客（収益）施設のバランスを取れば良い。
- ・ 民間のノウハウが活用でき、かつ公共的サービスについても行政側の意向が反映されやすいD B O方式が望ましい。
- ・ 集客性を考えるとP F I事業の導入は困難。

## (4) 事業参画の可能性について

- ・ 国道19号瑞浪恵那道路の開通時期を見極めながら、施設の計画や建設を段階的に進めることや、地元の資源や特産品を活用した施設や商品を開発する必要がある。

## 6 多治見砂防国道事務所との協議等

### (瑞浪市)

- ・ 国との一体型整備を目指している。
- ・ 地域資源の活用、河川を活用した水辺空間の創出等、地域の賑わいづくり、地域振興や防災の拠点としての整備を計画している。

### (多治見砂防国道事務所)

- ・ 瑞浪市、恵那市が近い位置での整備を計画していることから、機能面等での差別化を図ることが必要である。

### (恵那市)

- ・ 令和5年度から「道の駅基本計画」を策定中。

## 7 今後の予定について

- 国との一体整備に向けた協議
- 国道19号瑞浪恵那道路の工事進捗等を踏まえた、道の駅整備スケジュールの検討  
(基本設計、運営事業者の公募、詳細設計、工事、開駅)
- 道の駅整備運営事業スキーム検討調査業務の成果を踏まえた導入機能及び導入施設等の検証

MEMO